

BMS 1月例会のご案内



—123th Bungeiken Metropolis Seminar—



2026年1月25日(日) 9:30~12:30

プラス



大東文化会館 K302研修室 東武東上線池袋駅より約

15分、「東武練馬」駅下車歩4分(大東文化大学板橋キャンパスとお間違いないように。5Pに経路図掲載)



テーマ①:「海のいのち」(立松和平／東書・光村6年)

報告:松山幸路さん(大阪文芸研・枚方市小学校)



テーマ②:3学期教材、これだけはおさえよう

「スワンレイクのほとりで」(小手鞠るい／光村

4年) 資料提供:上西信夫(東京文芸研)

好きな諺①棚
から牡丹餅②
瓢箪から駒

(出典:島田陽子「続大阪ことばあそびうた」編集工房ノア1990)

26年夏は大阪大会。大阪
弁いくつかわかりますか。
「答え合わせ」は3ページ
にあります。



なんぎぎんぎん 島田陽子
いけずけずけ
しばくくばくば
なぶるるぶるぶ
ほさくくさくさ
いやがらししらしら
はちかるるかるか
おついいいばいば
こそばいいばいば
いらちちらちら
ずぼららぼらぼ
ぼやききやきや
へんねししねしね
くちなわわなわな
なんぎぎんぎん



参加申込 (ハイブリッド方式) リアル参加は先着40名とさせていただきます

す。申し込みについては、リアル参加の方も下記ピーティックスからの申し込みをお願いし
ます。リアル参加・オンライン参加共500円

参加申し込みは

<https://bms202601-bungei-tokyo.peatix.com/> から

【文芸研東京学習会(BMS)連絡先】上西信夫  →nobu.uenishi@outlook.jp



次頁  信天翁通信 ↓



酒も好き餅も好きなり今朝の春（虚子）

春立つや白き大地にまた一年（権）



今年の初午は2月1日（日）。2月の最初の午の日をさし、お稲荷さん（稲荷神社）のお祭りです。
 

メールでの新年のご挨拶で失礼します。

年相応にボケたり体のあちこちにガタがきていますが、何とかポクポク生きています。“瓢箪から駒”なんてうまい話はないと思うけれど、こまったときの酒頼み。今年もうまい酒をいっぱい飲んでヨタヨタ（酔った酔った）馬鹿丸出して、負け組の星・ハルウララのごとく元気に駆け抜けましょう。

今年もよろしくお願いします。（新年早々のお目汚し・お耳汚しの

駄洒落で失礼しました）

上西信夫（アホウドリ信天翁）

✉：nobu.uenishi@outlook.jp ☎：080-3253-4742

*文芸研 HP に毎月「BMS 例会案内・アホウドリ信天翁通信」を掲載しています。ご笑覧ください。





文芸研東京学習会(BMS1月例会)のご案内+

—123th Bungeiken Metropolis Seminar—



📷 富士山と日の出

👤 新幹線で西に向かうとき、小田原から新富士辺りにかかると、車窓右側から富士山が見えないかそわそわする。見えると何だか得をしたような、いい事がありそうな気分になるから不思議だ。実践研で神戸に向かう早朝も富士山を拝めるといいのだが…。

📅 12月7日(日)、大東文化会館を会場にBMS12月例会を開催しました。今回はシンガポールからのオンライン参加もありました。報告①上西信夫(東京文芸研 元千葉県小学校)による「イメージと意味を探る詩の授業」。明星の根岸さん、北村さんも参加して26年文芸研大阪大会詩分科会での報告を視野に入れての教材分析・授業構想の提案。提案教材候補として挙がっている「つるつるとざらざら」(谷川俊太郎)、「こゆび」(こわせ・たまみ)、「戦争」(内田麟太郎)、「生きる」(谷川俊太郎)等の教材分析と全体の構成について話し合われました。報告②「12月教材 これだけはおさえよう」も上西による「ぼくのブックウーマン」(ヘザー・ヘンソン作/藤原宏之訳/光村図書出版6年)の資料提供。形象の相関・全一性を読むことを第一義に、〈カル〉にみる人間変革の美と真実、真の豊かさとは何かの作品の主題・思想に迫ることをめざした報告でした。

👤 1月例会は、報告①「海のいのち」(立松和平/東京書籍・光村図書6年)を松山幸路さん(大阪文芸研枚方サークル)にお願いしました。25年文芸研千葉大会で大好評だったレポートをオンライン参加でお願いしました。ご期待ください。報告②は上西が「3学期教材 これだけはおさえよう」—「スワンレイクのほとりで」(小手鞠るい/光村図書4年)の資料提供。

📅 1月例会も改修を終えた大東文化会館にてハイブリッド方式で行いますが、リアル参加

は先着40名とさせていただきます。申し込みについては、リアル参加の方もオンライン参加の方も下記ピーティックスからの申し込みをお願いします。皆様の参加をお待ちしています。

記

1. 期 日 2026年1月25日(日) 9時30分~12時30分

ハイブリッド方式 当初の年間予定では、1月7日としていましたが、会場の関係で1月25日に変更しました。それに伴い、2月例会はお休みとします。

2. 会 場 大東文化会館 K302 研修室 (東武東上線池袋駅より約15分「東武練馬」駅下車歩4分(大東文化大学板橋キャンパスとお間違いないように))

3. 内 容

報告①:「海のいのち」(立松和平/東京書籍・光村図書6年)の授業
松山幸路さん(大阪文芸研 枚方市小学校)

報告②: 3学期教材、これだけはおさえよう
「スワンレイクのほとり」(小手鞠るい作/光村図書4年)
上西信夫(東京文芸研 元千葉県小学校)

4. 主催・参加費・申し込み 東京文芸研/リアル参加・オンライン参加共500円

参加申し込みは <https://bms202601-bungei-tokyo.peatix.com/> から

(一週間前には申し込みができるように準備をします。問い合わせ 事務局・西さん)
以上

🍷 例会後、例会で扱う教材以外の個別の相談にも応じています。事前に連絡をください。カンとセンスとブームの国語の授業からの脱却、教科書会社の指導書・赤刷り・ワークシートに頼らない授業構想力の獲得一視点・形象の相関をふまえた切実な共同体験の形成、文芸体験の思想化・典型化の授業づくりをめざします。23年夏の山口大会、24年の徳島大会、25年の千葉大会、各地の「国語の教室」や講座で初めて文芸研の理論と実践に接し興味をもたれた方、国語の授業づくりに困っている方、深い学びをと願っている方、教職をめざしている方、青年学校受講生の方、各地のサークル例会が開催困難なサークル会員の方々……の参加をお待ちしています。

トッパページ島田陽子「なんぎざんざん」の答え合わせ いけず…いじわる しばく…細いもので打つ。殴る。飲む、行く なぶる…さわる。からかう ほざく…つべこべ言う はちかる…はだかる。手足を拡げる おついでしょ…おべんちゃら こそばい…くすぐったい いちち…せかせかする人 ずぼら…なまけること ぼやき…ぶつぶつ不平を言う人 へんねし…やきもち くちなわ…へび なんぎ…面倒なこと。困ること

例会会場案内 🗺️ 大東文化大・板橋キャンパスとお間違いなく

大東文化会館



大東文化会館へのアクセス：池袋駅より東武東上線各停で7駅（約15分）、東武練馬駅（大東文化大学前）下車。どの出口からも徒歩3～4分／学習会会場は3・4階研修室（40人収容）、9時から13時まで借りています。（山中吾郎さんに尽力いただき、1月25日・3月1日まで予約済み。今から予定に入れてください。エデュカス東京・麹町より大東文化会館までの所要時間がかかる方もいると思いますが、引き続きリアル参加にご協力ください。）

インフォメーション

▼文芸研60回記念大会（大阪大会）プレ・オンラインセミナー⑤1月11日（日）10時～12時 オンライン 無料 講師：曾根成子さん（千葉文芸研）**「説明文の授業が変わる。子どもが変わる。」**／1月24日（土）プレ・オンラインセミナー特別企画(1)

「探究を生み出す教育的認識論」無料 講師：徳水博志さん（宮城文芸研）

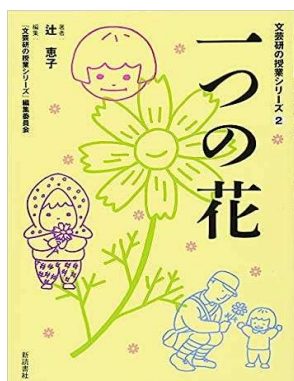
▼文芸研青年学校（オンライン）1月10日（日）9時～16時 詳細は文芸研HPをご覧ください。

▼今年度後半のBMS例会予定（原則第1日曜日）9時30分～12時30分 大東文化会館（東武練馬駅下車）

※2月例会はありません ・3月1日（日）大東文化会館

▽「文芸教育」（西郷竹彦創刊・文芸研編・新読書社刊）最新137号 特集「国語の授業で平和学習を／136号特集「今こそ平和教育を一戦後80年の節目に」1700円＋税 学習会場でも用意しています。年間購読をお願いします。

▽光村版・新教科書指導ハンドブック（学年別）発売中／新読書社より各学年 1700円＋税 セット割引有／この学年でどんな〈ものの見方・考え方〉を育てるかの観点で編集
 ▽文芸研授業シリーズ好評刊行中！ 第1弾「たぬきの糸車」（新読書社）・第2弾「一つの花」・第3弾「おおきなかぶ」・第4弾「わらぐつの中の神様」・第5弾新刊「サーカスのライオン」／教材分析と授業構想・授業記録がこの一冊に。板書や発問が参考にできて、使いやすい・わかりやすいと好評。入門書として最適です。各 1000円＋税



文芸研授業シリーズ 新読書社刊 1000円＋税

「文芸教育」新読書社刊 1700円＋税

「朝日歌壇・俳壇」より 子ども・学校・ことば・世相・戦争を詠む

世界が数字と化してゆく 初バイトの私1200円以下（東京都／傘井つみき）
 スタートのピストルの音を待っている冬の始まる匂いの中で（奈良／山添葵）
 三日前出たきみが予約した録画の赤がともるイヴの夜（上尾／関根裕治）
 三日月も澄んだ空気も独り占め冬を引き連れ早番勤務（富山／松田わこ）
 教室にカメムシ出たとき手でそっと外に逃がしてくれる子がいる（奈良／山添葵）
 どんぐりをたくさん拾った来年の十日えびすでしかにあげるんだ（春日井／吉田朱花）
 祖父ちゃんはおくすりをいつも転がしてほこりをつけてから飲んでます（小諸／星野直人） 錠剤をいつも取り落としているのだ
 十二月家族のいいこと思い出し乾杯する今も昔も（富山／松田わこ）
 後悔の反対語って何だっけそんな気持ち君を見送る（横浜／宮尾大地） 後悔の対義語は、期待、満足、予見、遠慮だけれど、収まり切れない何かいいことがあったんだ
 辞めてゆく保育士に児は人生初の別れに泣きじゃくり居り（香取／島田武夫）
 教員の世界はずっとそうでしたただ働くと言い切る総理（観音寺／篠原俊則）
 登り棒力いっぱいたぐり寄せきみは冬日の在（あ）り処（か）へ近づく（富谷／川村空也）
 バイオリン奏者の孫は病室で危篤の祖父に二曲弾きけり（敦賀／田中典子）
 人生初女子「お義父さんお義母さん」と呼ばれて我ら一升空くる（さいたま／齊藤紀子） 息子ばかり育てた夫婦に義理の娘ができた喜び。何とも楽しそうな下句と註にあり／一人っ子だった私も「お義兄さん」と言われたときは嬉しかった

発馬機に教室が見ゆ闘志まで衝立（ついたて）ごとに分断されて（小平／真鍋真悟）
保育所で「どこからきたの」「だれなの」と児らに言われるあやしいわたし（札幌／佐久間優子）
高校の教員辞めて保育士によいではないか人生いろいろ（藤沢／原島吉光）
どんぐりの転がるように笑う子は三月三日生まれの双子（高知県／原真由美）
よく響く重低音に反戦の思いを込めてた仲代達矢（東京都／十亀弘史）
「人間の条件」徹夜で観終えては難波の駅で始発を待ちき（大和郡山／四方護）
「炎上」の乾いた画面で初めて見たまだ若き日の仲代達矢（生駒／辻岡瑛雄） 11月8日に亡くなった仲代達矢を讃える歌が多かった
「由伸と対決した」がご自慢の元少年らがわが地区に増ゆ（岡山／寺谷和子） ドジャースで活躍の山本由伸投手。備前市の出身、オリックスの頓宮と幼なじみ
スーパーも手動となりし自動ドア熊と共生模索の時か（秋田／柴田敦子）
「良かったね」「柿の実いっぱい食べようね」熊の親子の最後の会話（酒田／今井喜代） 熊を詠む歌まだまだ続く
今ガザで爆弾の恐怖に震える子かつては日本の沖縄にもいた（妙高／那須喜代子）
歳をとるもの悲しさの正体はかなわぬ夢がふえていくこと（萩／石飛加名子）
ただ打つじゃ無くてここぞで打つ翔平長嶋茂雄もそうだったなあ（西海／前田一揆）
浴槽にたっぷり浸かる あゝわたし、水溶性ならよかったのになあ（横浜／久武和子）
浴槽で一瞬眠りし我がめて永遠（とわ）の眠りにつきし兄をり（つくば／小林浦波）
戦場を指に触れゆく地球儀のここそこそこ星の痛みは（神戸／山本みさよ）
もひとりの自分とつづく一人鍋二本の箸の先ふとさみし（福島／美原凍子）
いくたびも雪の深さを律答ふ（岐阜県揖斐川町／野原武）「いくたびも雪の深さを尋ねけり」の子規の句をふまえて、裏の形象の妹・律を詠む。
パン粉から一步退く噓（くさめ）かな（大阪／渡辺たかき）
震災に挽（も）げたる腕を足許に冬の桜を睨（にら）める仁王（羽咋／北野みや子）
処分されし母熊の胃は空っぽで熊と人との攻防悲し（横浜／米長百合子）
鼻眼鏡の親父ちゃんまり坐りゐる街の古書肆（こしょし）を文化といふなり（浜松／久野茂樹）
古書肆は専門書を揃えた古書店
横に娘も見守っているきょう黄泉（よみ）へ行く妻にキスしたいのに（川崎／箕輪京四郎）
東京はほっといてやる方がいいヤツも多いよ。だよな、将門（さいたま／山口晋裕）
五十年楷書の歌をありがとう高橋真梨子はわれの歌姫（新潟／大滝慶作） 詩と曲のしっかりした歌の数ターベドロ&カプリシャス時代の「五番街のマリーへ」「ジョニィへの伝言」、「はがゆい唇」「桃色吐息」「遥かなる人へ」「for you…」など。都はるみとちあきなおみと高橋真梨子は私にとっても歌姫
「申し訳ない」と涙を流す人大火のなかに自宅残りて（観音寺／篠原俊則）十一月十八日発生の
大分県佐賀関の大火報道で
誤字ひとつ見つけて思うこの人はA I でなくて自分で書いた（京都／清水希）
セルフレジは物から物を買ふ仕組み人から物を買ひたい私（東京都／上田国博）

浮（うわ）ついた都会の灯りをともすため地方原発再開なんて（つくば／石上徳千代）
大リーグ終われば明るいニュース消え熊と政治に胸塞ぐ日々（五所川原／戸沢大二郎）
歩行器を自在に操り百歳の姑は施設にのびのび生きる（橋本／秋月晶江）
秋空と銀杏の競演見もせず小さきスマホをのぞく若者（観音寺／篠原俊則）
熊穴に入らずいけないものを見る（世田谷区／野上卓）
旅の神踏みどころなしガザの街（箕面／櫻井宗和）
わたしいま聖徳太子モズ、メジロ、ヤマガラ、コゲラ、ヒヨ、ジョウビタキ……（松阪／こやまはつみ）
友好を願うおもごし温和なり東北大にたつ鲁迅像（仙台／沼沢修）
軍事費を増やし生活保護減らす美しき国に我は住みおり（朝霞／岩部博道）
華やかな都会の冬のライトアップ電気は本当は足りているのだ（新潟／鈴木秀子）
柏崎刈羽原発再稼働に揺れる新潟県民だからこその思い
熊を恐れ熊を哀れみ銃を持つにんげんの手に雪降りしきる（福島／美原凍子）
平和とは「自分のベッドで寝ること」とキーウの少女に安眠はまだ（中野／黒岩美智子）
優勝のダニール・ヤブグシシンの名を地球儀を回し子と繰り返す（町田／山田道子）
ダニール・ヤブグシシンはウクライナ出身の安青錦のこと
仕切り線に両手をついてしっかりと低く立ち合う安青錦関（栃木県／川崎利夫）
「世界中が平和になれば」と安青錦語る長崎平和像前（壱岐／篠崎美代子）
親方と友人の名と国旗（はた）の色をわが身に纏（まと）う安青錦新大（あらた）（川崎／寺尾和
比斗）親方は安治川親方（四股名は安美錦）、友人はホームステイをした関大相撲部・山中新大さん
福島の止まったままの寒さかな（福島県伊達市／佐藤茂）
ふるさとの山ことごとく雪の山（長野／縣展子）
引算（ひきざん）に切り替へ処する師走かな（大阪／上西左大信）
福生から八王子へと移り住み軍事機が飛ぶ空飛ばぬ空（八王子／斎藤千秋）福生市は横田基地の街
雪吊りの円錐形は木にやさし実用の果て美となりしもの（川崎／小池たまき）
米がまた配給制になるのかと真顔で案ずる卒寿の義母が（札幌／田巻成男）
腕時計見る間も惜しい配達時星座の座標で時間を計る（甲州／麻生孝）
八歳の少女が語る「死にたい」は今のガザの日常の言葉（高松／島田章平）
人生を要約すればかくのごとく喪中はがきの印刷五行（仙台／沼沢修）
解体は日本語じゃない人がして日本の家は更地に還る（岡崎／近藤義孝）
クマ呼ぶと柿はもがれてその幹に伐採予定のピンクのリボン（気仙沼／大崎泰史）
この地区で主語は要らない「出た」だけで熊だとわかる真面目にわかる（北海道／飯田左智子）
アメリカも熊被害あり柿の木を切ってくれよと近所の苦情（アメリカ／大竹幾久子）
通じ合うことば無きゆゑ人と熊在りても殺（あや）め合ふ人と人（嘉麻／野見山弘子）
山深く熊を眠らせ山眠れ（藤沢／朝広三猫子）
四選者対峙する熊の一万句（八王子／額田浩文）
「物騒なまま年越さんとす」と長谷川權さんの付け句

耐えがたきことを招きぬ開戦日（世田谷区／野上卓）

アホウドリ 信天翁の身辺雑感（BMS1 月例会+案内）

📍実践研に参加するために 26 日早朝新幹線で神戸に向かう。小田原の手前から雪化粧の富士山が姿を見せてくれた。澄んだ冬の空気のなか朝日に照らされて神々しい。三島、新富士とずっと右側車窓の富士を眺めながら過ごす。関ヶ原付近から雪模様の天候。彦根あたりから薄日が差し始め、見事な弧を描く虹まで見る事ができた。「モチモチの木」の霜月三日の晩のような幻想的な世界。幸先良い、今回の実践研ではきっと何かいいことがあるぞ…と密かに思う。（後日譚だが、積年心を痛めていた会の懸案——悲史の克服に向けての動きがあったことが三役会から知らされた。富士山と雪と虹はこのことだったんだ）

📍第 60 回文芸研大阪大会に向けての現地枚方の取り組みが半端でない。プレ・オンラインセミナーを毎月開催し（9 月上西 10 月山中吾 11 月辻 12 月井上 1 月曾根）さらに特別企画として宮城の徳水さんを引っ張り出した。当日都合の悪い参加者のために、あるいは文芸研の理論や実践に興味関心のある層に対応するために、アーカイブで録画を視聴可とすることまでやっている。従来もプレ集会はやっていたが、HP を見ると枚方での「国語の教室」だけでなく、京都、交野（かたの）・堺でと 3 月までの土日は全部予定で埋まっているという。困難な状況をいくら並び立てても現状は変わらない。「竜は嵐を起こし天に昇る」のごとくまず主体の問題として風を呼び嵐を起こす一連の企画・行動力には驚かされ敬服する。2027 年第 61 回大会は広島開催と立候補もあった。新ブロック制もスタートする。枚方の運動に学び、各地の独自性を十分生かした文芸研運動の展開を楽しみにしている。

📍今実践研には 13 サークルからの参加があった。運営は若手の酒井さん、赤穂さんにバトンタッチされ献身的な見事な運営であった。浅海さんの探究学習としての骨太な平和学習のレポート、私学の明星学園・根岸さんのレポート、田井さん、角さん、若林さん、酒井さんら青年学校出身者のフレッシュなレポート、（赤穂さんや大田さんも含めてレポートを輩出してきたその青年学校が 18 期をもって消滅するのは何とも残念。）活躍盛りの斉藤さん、吉田さん、松山さん、秋山さん、西さんらの中堅の安定のレポート。ベテラン勢では、中高分科会のレポートとして孤軍奮闘の小松さん、永渕さん…と、どのレポートも個性的で読みごたえのあるものばかり。研究部企画の学習会も、村尾さんによる「話法と作法」の整理もわかりやすく好評であった。山中吾郎さんの司会も全レポートを読み込み、討議の柱も明確で、いつも通りの見事な進行。その一方で老舗サークルが実践研に結集できなかったことは心配である。高知・人吉に加え、福山・鹿児島サークルは欠席で、かつて同じ釜の飯を食った仲間と後に続くメンバーのその後が気掛かりである。（大会レポートや司会の役を担わないと負のスパイラルに陥ってしまうので、レポートを出すことが鍵なのだ）青年学校 1 期生の田中みどりさん、池間さんも元気で、実践研では若手・中堅をしのぐ発言内容である。福山も鹿児島も 5 月実践研には顔を見せてほしい。こんな厚かましいことは私にしか言えな

いことだから……。

👤昨夏千葉大会での作文分科会のレポーターが事情で急遽辻さんに変更したことは記憶に新しい。今夏大阪大会・詩分科会では黒子のはずだった私が、演者に変身（相変移）して実践研参加者を驚かせてしまった。司会は何度もしたことがあるが、報告は何十年ぶりだろう。どうせならと、古い資料を引っ張り出して正月はレポートづくり。量は質を兼ねるとばかりに100頁近いものになりそうだ。（斉藤鉄也さんの作文レポート62頁超え！）文芸研への置き土産とってくれたら有難い。

👤レコ大を見ても、紅白を見てもほぼ知らないアーティストばかり。早々に退散して眠りにつく。床に入って見る夢は未だに圧倒的に学校が舞台だ。教員人生は「日々後悔、たま〜ぁに満足」の連続だったので、授業がうまくいかず立ち往生する夢や、子どもたちにそっぽを向けられあふたする夢、学習進度が遅れて学年末なのに積み残しがあって困った夢…と、ろくな夢はない。今年の初夢は、小学校中学校時代のようにスイスイ走っている夢。走っても走っても全然疲れない。ごぼう抜きの走りで気持ちがいい夢。元日のニューイヤー駅伝や2日の箱根駅伝をずっと観ていたからに違いない。何ともわかりやすい初夢であった。

👤故郷を離れて60年近く経つが、正月の時期は故郷のことを思い出す。紀伊山地の山の中、夏は涼しくてよかったが冬は雪が積もり厳寒の世界。素足で板の間を歩くと足裏が麻痺するような感覚を覚えたものだった。暖房といえば掘り炬燵に火鉢くらいなもの。中学生の頃には反射式石油ストーブもあったが、暮れの正月準備は寒い中での水仕事が兎に角嫌だった。嫌々するものだから失敗もいっぱいあった。大晦日の日は真っ白い布巾で神棚の掃除、飾り付け。床の間には普段の掛け軸に変えて正月だけの年季の入った「天照皇大神宮」の掛け軸。高三宝には鏡餅に串柿・橙、大根に松の枝を刺しその上に山盛りの米、魚（山の中だったので鯛ではなく焼き鯖）をお供えし、竈・便所・風呂まで輪飾りと小さなお供え餅を飾り付けた。その「天照皇大神宮」の掛け軸をぞんざいに扱って破ってしまい、えらく叱られたことがある。除夜の鐘は壇上伽藍の梵鐘・高野四郎の音を聞き（NHKの「ゆく年くる年」で放映されたときはすぐ傍まで観に行ったこともあった）「元旦の朝は声を掛けられたら一回で起きるように」と祖父に言われ、緊張して元旦を迎えたものだった。元旦は暗い内から雪を踏みしめ提灯の灯り（懐中電灯ではなく上西家と墨書した提灯だった。明神様のもらい火を持ってかえるためだったのだろう）を頼りに祖父と空海が高野山を開く前からの地主神・高野明神へ初詣。高野明神の火をいただいて、前夜祖母が用意してくれていた竈に火入れして雑煮の準備をする。正月三が日は女性を働かせてはいけないというしきたりで、元旦の雑煮は男がつくるものだった。料理などしたことのない祖父のこと、すべての段取りは祖母がしてくれていたと思う。雑煮は昆布だしに白味噌、丸餅、里芋、大根、人参、青海苔のみの関西風のもの。結婚してからは同じものを私が振る舞っている。天気予報で紀伊半島の山中が雪を表す白色になっていると、冬の雪の故郷を思い出す。



📷 子どもの頃初詣に行った高野明神御社



📷 高野明神御社近くの西塔。再建された大塔や東塔よりも趣がある

高野山は、和歌山県北東部にある真言密教の根本道場で、約 1200 年前に弘法大師空海が開いた日本仏教の聖地です。標高 800m の山上に金剛峯寺・壇上伽藍、奥之院などの多くの寺院（52 の宿坊、117 の寺院）があつまり、人口約 2500 人、僧侶の数は 700 人ほど。幼稚園から大学まである山岳宗教都市です。2004 年「紀伊山地の霊場と参拝道」としてユネスコ世界遺産に登録され、外国人も多く訪れています。



こうやくん



📷 壇上伽藍。手前は准胝堂、奥は根本大塔、真ん中の御影堂の檜皮葺き屋根に積もる雪の曲線が美しい。



📷 大門や高野山駅から雲海を眺めることができる

大阪大会の後には、京都・奈良もいいけれど（盆地の夏の暑さは半端じゃない）、高野山にもぜひどうぞ。800mの山上は涼しくて極楽。大阪難波駅から南海電車＋ケーブルカーで高野山まで2時間です。

（南海電車の歌 3 番）🎵 山は静かな塔の屋根 杉の木立の高野山 弘法大師の昔を訪ね 走る電車は緑の電車 なーんなーん南海電車 南の海を走ってく 🚆🚆🚆🚆 🌲🌲

（非公認ふるさと大使・信天翁）





古着 **世田谷ボロ市**



代官餅

毎年12月15・16日/1月15・16日 東急

世田谷線「上町」「世田谷」駅下車 安土桃山時代の楽市が起源。一日20万の
人出で賑わう 🍷 骨董 瀬戸物 民具 花木 グルメ…

第60回記念 文芸研全国大会(大阪)

大会内容

1日目

基調提案

実践報告

文化行事

落語

記念講演1 くすのき しげのりさん

記念講演2 鈴木 大裕さん

2日目

学年別分科会 7分科会

領域別分科会 7分科会

in 枚方市

大会テーマ

《ものの見方・考え方》を育てる **国語教育**
—真に深い学びを求めて—



絵本作家

くすのき しげのりさん



教育研究者・高知県土佐町議員

鈴木 大裕さん

2026年

8月1 (土) 2 (日)

大会サポーターに登録して、学びになるオンラインセミナー
やお得な情報を手に入れてください。→QRコードより



大阪大会サ

大阪大会プレオンラインセミナー⑤

説明文指導に困っている人のための

オンラインセミナー

説明文の授業が変わる。子どもが変わる。

授業のヒント・成功の鍵を学ぼう！

参加費
無料



✍ 説明文が“わかる”から“読みたくなる”へ
授業がマンネリ化してしまう「説明文」。
文芸研の視点を取り入れると、
子どもたちは自分で問い、考え、発見する読者になります。

🔍 このセミナーでわかること

- 子どもが読みたくなる説明文の視点
- 筆者の“表現の工夫”を発見させる授業設計
- 「類別・比較・理由」など認識の方法の教え方
- 読みが作文・スピーチへつながる学びの流れ
- 物語文 → 説明文 → 作文を一体で育てる文芸研の関連・系統指導

2026年

1月11日 日

10:00 - 12:00

zoomでの開催 無料

真に深い学びへのステップアップ

講師

曾根 成子

文芸研松戸サークル

お問い合わせ

大会実行委員 山中尊生

お申込みはこちらから▶

✉ imokonoko54@gmail.com
🌐 <https://www.bungeiken.com/>



文芸教育研究協議会



文芸研大阪大会プレオンラインセミナー特別企画（全4回）

zoom開催

参加費
無料

講座「探究を生みだす教育的認識論と総合学習の設計」

第1回探究学習に有効な「教育的認識論」

2026. **1.24** SAT
20:00~21:30（開場 19:50）

真に深い学びへのステップアップ

東日本大震災後の子ども達の実態から「僕も復興させたい」と成長するまで



講座
内容

「探究を生みだす教育的認識論と 総合学習の設計」

総合学習を任されても、「何を教え、どこまで深めればいいのか」と迷っていませんか。

物語・説明文・作文を切り離さず、関連・系統的につなぐことで、学びは一本の太い軸をもち始めます。

国語で育てた認識の力は総合学習へと広がり、子どもが自ら問い、考え、語り出す教室が生まれます。

授業づくりの確かな拠り所を、ここで手にしてください。

- ・ 第1回探究学習に有効な「教育的認識論」 1/24
- ・ 第2回子どもが震災体験の「意味づけ」を通して深く学ぶ探究学習 2/14
- ・ 第3回総合学習における単元構想と評価 2/28
- ・ 第4回自ら変革主体となる（学校と地域にて） 3/21

講師

徳水博志 氏

文芸研宮城サークル
元石巻市立雄勝小学校教員
現在 一般社団法人雄勝花物語共同代表

著作

文芸研の授業9 総合学習編

『森・川・海と人をつなぐ環境教育』明治図書2004年

『震災と向き合う子どもたち』新日本出版社2018年

共著 『生存の東北史』大月書店2013年

文芸教育95.96.97号「地域の復興なくして学校の再生なし」

DVD『はくたちわたしたちが考える復興・夢を乗せて』

日本児童教育振興財団2014年

参加方法・申込方法

【主催】文芸教育研究協議会

imokonoko54@gmail.com

大阪大会実行委員 山中尊生

1回ずつの参加でも学びになる構成になっていますので是非、ご参加下さい。申込み→

<https://forms.gle/muF7gE9hqiBnXEEd38>



子どもの読解力を育てる
実践理論研究誌

文芸 教育

137 2025 冬

西郷竹彦 編集
文芸教育研究協議会 編集

実践記録

三学期の教材「ここだけはおさえよう」
「かきこじぞう」(小・中・高・大)
「おにたのぼうし」(小・中・高・大)
「ゆうすげの小さな旅館」(小・中・高・大)
想像力のスイッチを入れよう(小・中・高・大) 福崎純

秋元須美子

辻 恵子

酒井大輔

福崎純

特集

国語の授業で平和

平和学習は社会科だけのものか
イメージ体験を通して
戦争・平和に出会わせる
切実な体験が戦争の本質を
うきほりにする

松山幸路

秋山亮介

満田和幸

小松小百合

心通せられる体験をくわて平和を築ける
「今、ここにいる自分の問題」として

辻 恵子

文芸研の実践理論研究誌「文芸教育」137号刊行！
特集：国語の授業で平和学習を



引き続き定期購読をお願いします。1700 円＋税

購入は直接新読書社へ。学習会でも用意しています。

<http://shindokusho.jp/> tel. 03-3814-6791 fax. 03-3814-3097



アホウドリ

じゃあね

文芸研東京学習会(BMS)連絡先 上西信夫

☐→nobu.uenishi@outlook.jp ■SMS→ 080-3253-4742

瓢箪から駒

2025年に引き続き 2026年も「信天翁通信」にお付き合いください。

